

1/27 常盤塾議事録

参加者:常盤先生、片平先生、古川さん、古城さん、出井さん、松永さん、松山さん、昌子さん、丸山さん、今田さん

①一分間スピーチ

古川さん「あれくさで議事録を取ることを考えたが、AIは文脈を読み共有することができないのでまだまだ不可能だと思った。」

古城さん「オーロラを見に行ったら。寒かったけれど、とても温かみがあった。」

出井さん「絵がない絵本の話。面白さは、大人が言ってないような内容を子供に読み聞かせるギャップ。」

松永さん「日経に載っていたクラウドの話。クラウドは一社だけが牽引している。コンピューターを雲や空気に見立てて議論するのは、日本人はなかなかできない。」

松山さん「山東省の曲阜によく行く。そこには大阪産の機械が多い。中国の機械が進化するのとともに、ものづくり力も高くなっている。」

昌子さん「最近の若い人はテレビを買わず、新聞も取らない。お金を貯蓄している。時代が変わる中で、社会保障はどうなるのだろうか？」

丸山さん「サピエンス前史で、虚構というワードが重要だった。人間が作ったものは虚構なイメージがあるが、虚構に対する見方をどうするかも重要だ。」

今田さん「今月から保育士生活を始めた。疲れるが、体力を使うため健康に良いと感じる。ただお金は低いので、若いうちにお金を貯めて、その後好きなことをすれば最も良いと感じる。」

②常盤先生のお話

MODOKIを読んだ。

蕪村の俳句「いかのぼり昨日の空のありどころ」の句がよかった。

「高く心を悟りて、俗に帰るべし。」の精神はとても重要。

世間と世界は違う。世界=一つの塊 世間=ちぐはぐ、普遍性・合理性なし

我々が生きているのは世間。

世の中の見方は二つ。①世界を道理的に捉える見方 ②世界を非道理的に捉える見方(=世間)

今は個体よりも全体を捉えようとしているのではないか。

全体(=合理的、科学など)が全面に出してしまうと、個の存在感は失われる。

MODOKIのあり方がこの話の鍵になる。

「がんもどき」という食べ物がある。そもそも雁の肉を似せて作ったもので、地方によって詳細は違う。「もどき」にしたことで、広がりが出たのだ。

技術開発にしてもそうで、「もどき」が「もどき」を生む。「もどき」にはより良い「もどき」のポテンシャルがある。

では、「本物」はなに？→自然 人間を超えたもの

人間は、自然を真似しようとして開発を繰り返している。

英語にも、mimetic という単語がある。

変化は徐々に起こるもので、一気に変化するわけではない。なので、気づいたら AI が当たり前の世界になっているかもしれない。

「もどき」を考える際には、その周辺にあるものも考えなければならない。また、「もどき」の遠近感を捉えるのも大事。「もどき」の連鎖の中に新しい世界が生まれていく。

③発表を受けての議論

松永さん「欲は虚構？新しいものを作るべきなのか、今あるもので応用すべきなのか。田舎の社会の方が理想？」

古川さん「今ある制度が前提になっているが、それが変わっていくことを考えなければならない。中国やロシアは戦争をオプションとして持っている。先進国以外もいわずもがな。安全が約束されている先進国だけをモデルに考えるのは違うのでは。」

松永さん「自動車産業など、かつて全盛期だった世界も変わってきた。自分の作ってきたものも、時代に合わせて扱いが変化してきた。」

古川さん「軍事にお金が流れている時勢である。」

丸山さん「根本の平和を考えると、日本の憲法は危うい。今は武器を持った方が平和を保てる時代である。」

片平先生「平和を保障する齋代の方法は、最強の武器を持つこと。人文科学をきちんと勉強した人間がそれを保管するべき。」

古川さん「日本人に憲法を守る気はあるのか疑問」

片平先生「北朝鮮からミサイルがきたら終わり」

古川さん「経済学の中にも、非論理的要素を取り込んでいくべき」

松永さん「欧米では、世界と自分を対比する考えかたをする。日本では世界と世間を対比」

片平先生「人間は、何が綺麗か、何がそうでないかを学ばなければならない。鳥取に行った時、万年筆屋と紙屋が流行っていたのを見て、鳥取はすごいと思った。」

古城さん「自動車の MAZDA は生き残るために、デザインを重視して差別化をしている。」

松永さん「イタリアでは、インダストリーとして大量生産はしない。工房でデザインしている。」

片平先生「日本ではテイストを学ぶ機会が少ない」

丸山さん「ヨーロッパでは後世に残そうと石を使うが、日本では変化させるために木を使う」

片平先生「ドンペリ専用桶を作った中川さんから木桶を購入したが、最高である。」

松永さん「百均で満足出来る感覚から美しいものは生まれない」

片平先生「電車の七つ星を先週見てきた。駅で手洗いしていた。また、ディーゼル車で、音が素晴らしかった。本当に良いものはクラシカル。」

古城さん「豪華さは、経験からくるもの。」

片平先生「春秋というレストランのインテリアは全て廃材あらできている。そういう工夫は面白い。あと、大阪の帝国ホテルに泊まった時、部屋があまりにも完璧に綺麗で驚いた。これは労働賃金の関係だけで説明できるものではない。帝国クオリティに対する思いが現れている。」